

# 「京すりもの」ロゴデザインコンペ 審査結果発表

京都ブランド委員会／委員長 森田 眞利

当組合では、平成17年度より、京都らしい文字、色などの研究・開発を行い、「京すりもの」の名称で、印刷の京都ブランドを目指しています。

この度、我々の推進する印刷の京都ブランド＝「京すりもの」を、広く一般の方々にも知っていただき、親しんでいただくため、「京すりもの」ロゴデザインコンペを実施いたしましたところ、全国から286点もの多くの作品が寄せられました。

過日、当組合役員、外部有識者により厳正な審査(一次審査、二次審査、最終審査)を行いました結果、下記の通り、グランプリ、理事長賞、京都ブランド委員長賞、入選の各作品が選出されました。おめでとうございます。

ご応募いただきました皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

なお、表彰式は、11月15日(日)午前11時より、パルスプラザ(京都市伏見区)に於いて実施いたします。受賞者各位には、後日改めてご案内させていただきます。

## 受賞作品一覧と講評

### グランプリ

■受付番号134-1 京都府 澤田 美穂さん



一目見たときの感想は、「洗練されている」でした。このように洗練されているロゴを用いれば、「京すりもの」に対するイメージアップにも繋がることでしょう。「京すりもの」の字形にオリジナル性が凝縮されており、筆文字と「京ひらがな」を上手く融合したバランスの取れたロゴだと思います。また、コンセプトである京都らしさやCMYKをアクセントカラーに上手く落とし込んでいるという印象を受けました。

## 理事長賞

■受付番号135-1 京都府 滝川 栄枝さん



印刷機というハードな形を表現しながらも、京都のイメージを有機的な円で表現し、モノクロの汎用性の高さも兼ね備えたデザインだと思いました。上品さ、ハイセンスさ、キレイさを持ちながら親近感溢れる作品であると評します。

## 京都ブランド委員長賞

■受付番号 31-1 神奈川県 原田 一穂さん



錯視的な手法を用いたアイデアに強く印象を受けました。デザインの解説にあるように、「すりもの」を違和感無く、ごく自然に「京」の中に埋め込めていると思います。他者には無い独自の視点に基づいた作品であると評します。

## 入 選(受付番号順にご紹介)

■受付番号 32-3 東京都 内田 彩燕さん



要素を上手くまとめプロらしい使いやすいロゴに仕上がっています。

■受付番号 74-1 奈良県 曾我 安代さん



源氏香をアレンジするアイデアが京都イメージには効果的でした。

■受付番号 36-1 京都府 小田 純子さん



京都らしさを重視して、書体も個性的でインパクトのある作品です。

■受付番号 80-1 兵庫県 高橋 智明さん



簡潔で明るくPOPなイメージで「印刷機」と「京」が解かりやすく好印象でした。

■受付番号132-1 京都府 則武 千鶴さん



意図を活かしたコンセプトワークやロゴデザインとしてのまとまりが良い。

■受付番号134-4 京都府 澤田 美穂さん



京都らしさ、印刷のイメージを上手く表現できています。文字の印象が少し弱い。

■受付番号133-2 京都府 品角 正紀さん



図形の構成、色の汎用性も考慮し、洗練されインパクトも有るデザインです。

■受付番号134-5 京都府 澤田 美穂さん



POPなイメージでまとまっています。もう一步のインパクトがあればと思います。

## 総 評

今回は200点以上の応募作品から審査するとう、大変貴重な機会を頂戴いたしました。

日本全国、そしてプロ、アマ、学生さんなど様々な方々が「京すりもの」ロゴデザインコンペに関心を持ってご参加されました。

一次審査、二次審査の京都ブランド委員会審査会では、白熱した意見が飛び交い、盛況を呈しました。

主に以下の観点に基づきながら作品の選出を行いました。

- ・インパクト(記憶に残る)
- ・オリジナリティ(独創的)
- ・使いやすさ(モノクロや小サイズ)
- ・その他(コンセプト、印刷イメージなど)

この三つの観点に基づく審査の結果、ご紹介した11作品を選出しました。入選されたそれぞれの作品は、多数の応募の中から厳選されただけあって非常にレベルが高く、委員の方々も、審査に思い迷われていたことをここに記させていただきます。

私は「京すりもの」という言葉にこれまでに無い新しさを感じており、アピールできる言葉だと理解しています。

この度ロゴマークに採用されることとなったグランプリ作品は、洗練されたデザインで汎用性があり、且つ「京すりもの」をアピールできるデザインです。組合員のみならず、広く一般の皆様に向けて認知度を高める役割を担うことと思います。

講評・総評は、特別審査員の大森あき子氏(㈲大森デザイン事務所代表取締役・京都造形芸術大学非常勤講師・NPO法人国際芸術文化センター代表理事)に執筆していただきました。



一次審査